

宮代版スーパー・シティ構想 地域まちづくり計画

令和6年3月
(令和6年9月更新)
宮代町

取組の概要

まちづくりにおける課題

商業施設の立地が限られており、住民の生活利便性や町の地域経済循環を高めるためにも新たな商業機能の誘導が求められる。また、東武動物公園駅などの既存都市機能の充実・活用による、町の賑わいづくりが求められる。本町の人口は住宅地の整備等で微増傾向にあるが、65歳以上の老年人口も増加しており、高齢化が進行している。

町内に多くの河川が流れており、大雨などによる浸水被害が多く発生しており、住民の安心・安全な暮らしを守るためにも、自然災害への対応の充実が求められる。

まちづくりの方向性

宮代町第5次総合計画では、宮代町の未来像として「首都圏でいちばん人が輝く町」を掲げ、各分野における「宮代らしさ」の創出により、住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを目指している。それらを実現するために「宮代らしさを価値として高めていく」、「コンパクトな町の強みを活かす」、「さまざまな活動や主体を生み出す」、「社会環境の変化に対応し行政運営を変化させ続ける」といった4つの基本構想と、構想を実現するための13の方針、32の実行計画に基づきまちづくりを推進していく。

他の計画における位置付け

- ・第5次宮代町総合計画
- ・第2期宮代町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・宮代町都市計画マスタープラン
- ・宮代町公共施設等総合管理計画
- ・第2期公共施設マネジメント計画
- ・宮代町立地適正化計画

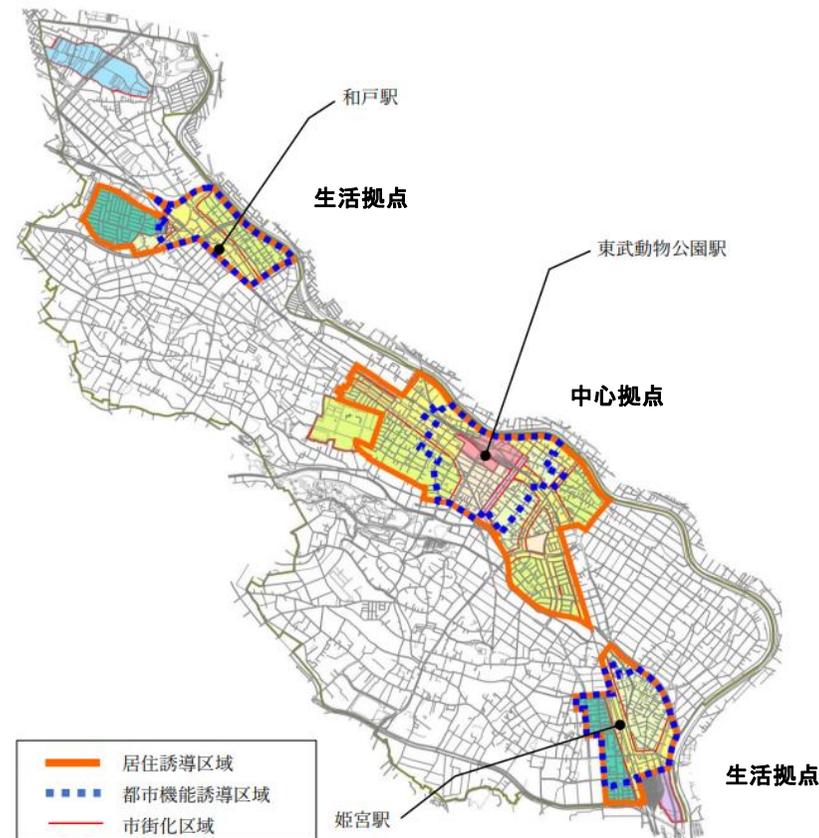
対象地域の位置及び区域

宮代町全域

中心拠点(東武動物公園駅周辺地域)

生活拠点(和戸駅、姫宮駅周辺地域)

地図



地域の現況

人口・世帯の状況

本町の総人口は、平成7年(1995)の35,712人をピークに減少を続けており、平成26年(2014)からは上昇に転じるものの、令和5年4月1日現在では33,346人とピーク時と比べ約7%減少している状況となっている。

「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和3年3月)」の推計人口では、2060年には人口は29,614人となり、現在から約1割減少、高齢化率については、32%から35.4%まで上昇する見込みとなり、それに伴い、生産年齢人口は約23,000人となり、現在より緩やかに減少していくと推計されている。

世帯数では、平成7年に11,985世帯であったのが、核家族化が進行していること等が要因となり、令和5年には15,405世帯と大きく増加している。

開発の状況

中心拠点である東武動物公園駅周辺における賑わい創出に向けて、多様な機能を有する新たな拠点市街地の形成、駅前広場や道路整備に伴う交通結節機能の強化に取り組んでいる。また、圏央道に隣接する広域交通利便性を活かし、和戸横町地区における工業系及び流通系施設の立地を誘導する産業拠点の計画的な整備を進めている。

また、住居関係の開発としては、道仏土地区画整理事業などの定住促進策を実施するとともに、市街化調整区域の田園地域及び既存集落における町の原風景を形づくる農地・平地林・河川などの「宮代らしさ」の価値を高める自然環境については、将来にわたって適正に確保していくため、管理・保全・活用を促進している。

地域交通の状況

本町は、コンパクトな町域の中に東武スカイツリーライン(東武伊勢崎線)、東武日光線による鉄道網と、東武動物公園駅、姫宮駅、和戸駅の3つの鉄道駅を有している。これらの交通機関は町民のみならず、本町への通勤・通学者、来訪者の主要な移動手段となることから、安全性や利便性向上に向けた事業者への要望活動や交通結節機能の強化に取り組んでいく。

その他の公共交通としては公共施設を繋ぐ「宮代町循環バス」が整備されており、利用促進として、宮代町第5次総合計画に基づき実施している宮代型デマンド交通事業において、循環バスの運行内容の見直しや75歳以上の方などへのタクシー助成制度も導入している。

地域資源

本町は都心から40km圏内にあり、東武鉄道が町を縦断しており、東武動物公園駅、姫宮駅、和戸駅の3駅を中心として市街地が形成されている。また、自然環境に恵まれており、広がる農地や平地林、河川・用水路など、町の原風景を形づくる「農」の資源や「ほっつけ田」や山崎山など先人達から続く歴史的財産は本町が目指す「宮代らしさ」の価値を高めていく重要な地域資源である。中心拠点である東武動物公園駅周辺では、象設計集団が手掛けた進修館、笠原小学校といった特徴的な建築物を始め、東武動物公園や新しい村、日本工業大学など人々が賑わう魅力的な施設が点在している。また、西光院、姫宮神社や身代神社などの寺社仏閣をはじめ、加藤家住宅など、町の歴史を伝える文化財が数多く残っている。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

【首都圏でいちばん人が輝く町】

都市機能が集積し町の中心的な役割を担っている東武動物公園駅周辺地域を中心拠点としたコンパクトな地域拠点整備と、既存住宅地であり主要な生活拠点の役割を担っている和戸駅、姫宮駅周辺地域の地域活性化を図る。

AIやIoTを活用した安全で利便性の高い暮らしを確保するとともに、再生可能エネルギー設備を整備することにより、災害時にも安心できるまちづくりと脱炭素化を同時に実現するまちづくりを目指す。

推進体制

(1) 自治体経営会議

宮代版スーパー・シティ構想の実現を目指し、持続可能で自律した行財政運営に関する計画等の進行管理を行う自治体経営会議において全庁的に推進を図る。

【組織体制】

町長、副町長、教育長、会計管理者、総務課長、企画財政課長、住民課長、税務課長、町民生活課長、環境資源課長、福祉課長、子育て支援課長、健康介護課長、産業観光課長、まちづくり建設課長、教育推進課長、議会事務局長

(2) 事業所管課における各種審議会、委員会等

実行的な推進を図るため、施設や事業所管課における計画の推進に係る審議会等により、きめ細かな推進を図る。

(3) 官民連携による推進体制

東武動物公園駅西口周辺エリアを対象に、町、住民、東武鉄道(株)、(株)良品計画、日本工業大学など様々なプレイヤーによる推進体制を構築し、宮代町の魅力を高めていく。

事業全体の概要

【コンパクト】歩いて楽しい中心エリアの整備と小学校の再整備による地域活性化

- ・東武動物公園駅東口と西口から進修館、東武動物公園、新しい村までをウォーカブルな道へ整備することで、エリアの価値を高めるとともに、新しい村を魅力的な空間に変えていく。
- ・和戸地域の小学校を地域の人々が集まる「地域拠点施設」として、多機能化・複合化する。

【スマート】AIやIoTを活用した安全で利便性の高い暮らしの確保

- ・農業用ドローンなどを活用したスマート農業の推進を行い、営農の継続性を確保・生産性の向上を目指す。
- ・公共施設へのインターネット予約システムを導入する。

【レジリエント】災害時でも途絶えない電源の確保と脱炭素社会実現に向けた取り組み

- ・公共施設に太陽光発電等の再生可能エネルギー設備を整備し、災害時や停電時に対する強靱性の向上を図る。同時に、避難所に指定されている施設に対し、蓄電池などのエネルギー供給源や空調設備を設置し、防災機能の向上を目指す。
- ・再生可能エネルギーを活用した発電設備を導入することにより、ゼロカーボンを推進する。

宮代版スーパー・シティ構想 計画図

《コンパクト》

- ・東武動物公園駅東口と西口から進修館、東武動物公園、新しい村までをウォークラブルなエリアへ整備。
- ・和戸地域の小学校に地域コミュニティ施設を併設する再整備を行い、地域住民が集う「地域拠点施設」とする。



須賀小学校



東武動物公園駅
西口わくわくロード

《スマート》

- ・農業用ドローンなどを活用したスマート農業の推進。
- ・公共施設へのインターネット予約システムを導入。
- ・災害情報の可視化・情報発信



スマート農業

《レジリエント》

- ・公共施設に太陽光発電等の再生可能エネルギー設備を整備し、災害時や停電時に対する強靱性の向上及びゼロカーボンの推進を図る。



電動公用車

太陽光発電設備



宮代版スーパー・シティ構想 計画図

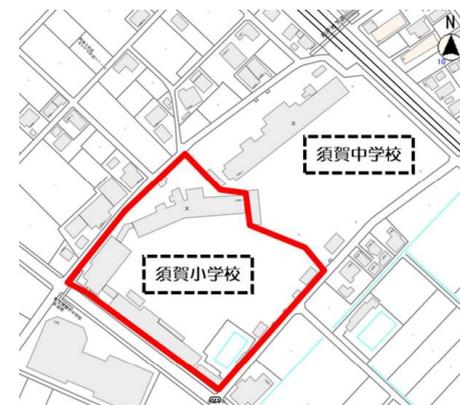
《コンパクト》

- ・東武動物公園駅東口と西口から進修館、東武動物公園、新しい村までをウォーカブルなエリアへ整備。
- ・和戸地域の小学校に地域コミュニティ施設を併設する再整備を行い、地域住民が集う「地域拠点施設」とする。

基本理念(キャッチフレーズ)

かえでの木の下 子どもと大人が共に学び 共に育つ
 ～須賀小エリアに活動を生み出す みんなの学校～

- 基本方針1 新しい時代の流れに対応した小学校を再整備する
- 基本方針2 学校と地域の交流により子どもたちが学び・成長する場をつくる
- 基本方針3 地域のみんなが集まり、新たな出会いや活動が生まれる場をつくる
- 基本方針4 地域のネットワークを築き、エリア全体を活性化する



導入する主な機能イメージ



・最良な教育環境を提供する学校機能



・気軽に立ち寄れる居心地の良いオープンな場
 ・サークルや自治会の集まり、イベントなど様々な地域の活動ができる場
 ・人と人、人と情報をつなげ、新たな活動を生み出す機能



・いざという時に備える地域の防災機能

【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール					備考
			R6	R7	R8	R9	R10	
東武動物公園駅西口わくわくロード事業	町 民間事業者 大学	駅から東武動物公園、進修館、新しい村までを、町民・観光客・事業者と共にアイデアを出し合いながら、歩いて楽しく、わくわくするようなエリアに整備し、西口周辺の価値を高める。	整備方針の作成 実施設計 整備工事	整備工事	エリアの活用			埼玉版スーパー・シティプロジェクト推進補助(県)を活用予定
宮代町立須賀小学校の再整備等地域拠点施設整備プロジェクト	町	須賀小学校に地域コミュニティ施設を併設する再整備を行い、地域住民が集う「地域拠点施設」とする。	基本設計 実施設計	校舎解体 建設工事	建設工事	地域拠点の運用開始		国庫補助・地方債を活用予定
宮代町立小中学校適正配置事業	町	社会の変化に対応した最適な教育環境を子どもたちに提供するために、小中学校の適正な配置を進める。	再整備に向けての検討		百間小学校の再整備の検討			国庫補助・地方債を活用予定
東武動物公園駅東口にぎわいロード事業	町 (宮代・杉戸) 県	駅東口の地域の魅力とアクセシビリティを向上させるため、駅前広場や都市計画道路を一体的に整備し、他自治体と広域的につながるターミナルとしての機能を高める。また、杉戸町との連携による賑わいづくりを進める。	用地交渉、関係機関協議など					

【レジリエント】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール					備考	
			R6	R7	R8	R9	R10		R11以降
宮代町公共施設への太陽光発電導入	町	宮代町の脱炭素化対策・災害対策として、町内各公共施設に太陽光発電等の再生可能エネルギー設備を導入することにより、災害時でも電源が途切れない仕組みづくりを行う。	調査 設置箇所の検討	設置工事 運用 設置箇所の検討					国庫補助・地方債を活用予定
指定避難所の機能強化	町	指定避難所となる学校体育館などに、避難する住民が安心して過ごせる環境を整備するため、蓄電池等の設置及び空調設備導入を検討し、レジリエントの強化を目指す。	指定避難所である小中学校への空調設備 設計及び設置工事	その他の避難所への空調設備の設置検討					国庫補助・地方債を活用予定
			蓄電池の設置施設の検討						
公用車の電動車化	町	公用車の電動車化を図り、災害時の電源確保及びゼロカーボンの推進を行う。	電気自動車の購入	電気自動車の導入及び活用の検討					地方債を活用予定

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	最新値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
コンパクト	東武動物公園駅西口わくわくロードの整備	わくわくロードの整備 (0%) (令和5年度当初)	わくわくロードの整備 (30%) (令和5年度末)	わくわくロードの完成 (100%) (令和7年度末)	第5次宮代町総合計画
コンパクト	小学校再整備による地域拠点施設の整備	0か所 (令和5年度当初)	0か所 (令和5年度末)	1か所 (令和9年度末)	須賀小学校地域拠点施設基本構想
スマート	ドローン利用による施肥・防除作業及び水管理システムによる水稲の水管理作業時の労働時間(作業時間)の削減と米の品質向上(被害粒<斑点米>の削減)	ドローン利用による施肥及び防除面積 ・防除4ha・施肥0ha 水管理システムによる水稲の水管理実施面積 ・0ha (令和5年度当初)	ドローン利用による施肥及び防除面積 ・防除4ha・施肥0ha 水管理システムによる水稲の水管理実施面積 ・0ha (令和5年度末)	ドローン利用による施肥及び防除面積 ・防除20ha・施肥10ha 水管理システムによる水稲の水管理実施面積 ・5ha (令和10年度末)	
スマート	公共施設予約システムの導入	導入率0% (令和5年度当初)	導入率100% (令和5年度末)	予約可能施設の導入率 100% (令和7年度末)	
レジリエント	防災拠点の機能を兼ねる公共施設の脱炭素化とレジリエンス強化(再生可能エネルギーの設備容量)	35kW (令和5年度当初)	35kW (令和5年度末)	432kW (令和7年度末)4箇所	宮代町第3次地球温暖化対策実行計画(事務事業編)
レジリエント	公用車の電動車化	1台 (令和4年度当初)	3台 (令和5年度末)	5台 (令和9年度末)	